

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和4年度第2回）議事概要

日時：令和4年5月27日（金）10：30～12：00

場所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、北川昌伸理事、  
小野高史監事、近藤浩明監事、島田中央病院長、大津東病院長

欠席者：北川雄光理事、飯野奈津子理事

I. 前回（令和4年度第1回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を間野理事と小野監事に依頼。

II. 報告事項

1. 企業との人材交流について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・人材交流を民間企業と進めていくということは賛成である。ぜひ積極的に進めていただきたい。しかし、旧来の派遣割愛という役所的な発想は、将来、NCCのような高度な研究開発機能を備える組織には当てはまらなくなる可能性がある。例えば民間からの出向者の守秘義務、不正競争防止法、知財管理、利益相反管理等で課題が出てくると考える。また、民間企業から見れば、派遣法との関連、業としての派遣等、労働契約上の論点が出てくると予測されるため、雇用管理面についても今後議論していただきたい。  
-ご指摘いただいた、類型、名称、必要となる制度設計上のルール作りについても丁寧に議論を重ねていきたい。
- ・積極的な人材交流は素晴らしいことで是非進めていただきたいと思うが、特に企業からの出向者を受け入れる場合について、昨今、研究倫理指針などの変更・改正が相次いでいること、個人情報保護の指針についても多方で議論が交わされていることもあり、かなり変革が進んでいくと考えられる。NCC内の職員への教育・研修は充分に行われていると思うが、出向者への教育・研修も漏れがないようなシステム作りも行っていたいただきたい。  
-倫理管理上、コンプライアンス遵守についてもさらに丁寧に対応する必要があると考える。また、進捗に関しても逐次理事会で報告させていただく。

2. 2021年度産学連携・知財関連実績について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・産学連携のトップランナーといっても過言ではない素晴らしい実績であると思う。シーズの目利きから棚卸し管理、収益化に至るまでこれほどバランスよく効率よく行われている取り組みは聞いたことは無い。共同研究費を増やしていく、出願をし、管理をするものを増やしていくということだけであれば、数は増やせる。一方経費がかさむことになるが、そうではなく、きちんとした管理をしながら進めている点は高く評価したい。  
また、共同出願で海外との共同研究のベンチャーまで出ていくあり方は大変素晴らしいと思う。一方、単独出願でありながら多数のNon Exclusiveなライセンスで出そうとすると、企業との連携努力をした方が非常に高い利益率が上がると思うので、このNCCの取組みを維持発展させるとともに、全体の仕組みそのものが一つの手本になるものなので、関係機関との情報共有も進めるべきと考える。

-法人化以降、知財管理部門は大野室長を中心に戦略的に取り組み、知財管理のタイミング、棚卸、企業との共同研究を複合的に進めてきた成果だと考える。引き続き期待したい。

### 3. 2022年度調達等合理化計画について

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・調達に関して非常に綿密な計画であると思う。調達の合理化、競争性を高めるということは大切なことであると思うが、現場の研究者に可能な限り負担がかからないシステムの構築にも配慮いただきたい。
- 研究者に負担がかからないように、マニュアルの策定、少額のものに関しては電子入札を積極的に取り入れられるような仕組みを導入している。他にも研究者の負担軽減については議論していく。

### 4. 柏キャンパスマスタープランについて

資料に沿って報告された。

### 5. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・国が電子カルテ情報の標準化に着手されたということは喜ばしいことである。EHRの活用について2017年のOECD報告によると、ガバナンスも、技術的な準備状況もOECD最下位の日本は他国に置いて行かれている状況である。ヨーロッパでは医療情報の利活用が医療のみならず、研究開発からファーマコビジランス(医薬品安全性監視)に至るまで驚愕の速度感で進んでいる中、日本では2025年によく電子カルテ情報の標準化という速度感に違和感を感じている。これについて政府系会議ではどのような議論がなされているのか。
- 電子カルテから引き出す情報を FHIR 形式で標準化するという合意の下、電子カルテのベンダー各社も FHIR 形式でデータを出せるように議論が進んでいく段階に入ったと考える。センターの両病院とも将来の情報利活用を前提として、電子カルテのシステム対応等を行っているという認識である。政府系会議の動きも参考にしつつ、各病院から発信できるものは発信していきたい。
- 電子カルテ情報の標準化は根源的な問題であり、スピード感をもって国として進めていく課題である。がんセンターとしても尽力していきたい。

### 6. 広報実績等

資料に沿って報告された。

### 7. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

### 8. 4月分医業件数等

資料に沿って報告された。